

Ⅲ－５ 「森の子学校」体験活動推進事業

【社会教育課】

1 実施主体

大分県立香々地青少年の家

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

- ・子どもの体験活動の充実
体験活動を推進することによる児童生徒の自己肯定感の向上
森林学習はSDGsに貢献、気候変動・災害と密接に関連
- ・大分県の林業の課題
人工林への対応・災害に強い森づくり・担い手育成
- ・学びと連動した体験活動
理科・社会などの各教科と関連付けた森林の役割や保全の学習が必要

(2) 目的

社会教育施設である青少年の家を活用し、学校教育と連動した事前学習、直接体験、事後学習からなる学習プログラムを実施することにより、次世代を担う子どもたちへの森林・林業教育の推進を図る。

(3) 事業内容

- 1 森林・林業教育プログラムの体系化
(1) プログラム検討委員会 (2) フィールド整備
- 2 モデル校によるプログラム実践
香々地・九重青少年の家での集団宿泊研修に森林・林業教育プログラムを活用する学校に事前学習・直接体験・事後学習からなる学習プログラムの提供とモデル校による森林・林業プログラムの実践

3 成果

県内小学校13校、中学校2校で森林や林業に関する事前学習・直接体験・事後学習を実施することで、学校教育での森林・林業教育を推進することができた。

参加子ども数が247名(R4)から692名(R5)と拡大した。

4 今後の課題と取組

森林・林業教育プログラムモデル実践校の目標数を令和5年度と同じ15校とし、その実績をもとにさらに広報を充実させ、実践校を募る。また、実施できるプログラム数を10個以上に増やし、内容を充実させる。

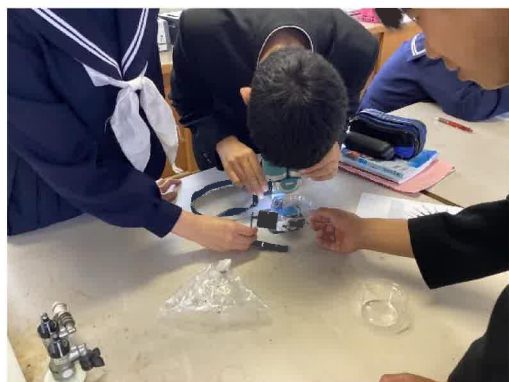
5 実施状況写真



事前学習の様子



林業体験



落ち葉の下の生物観察



花炭づくり

Ⅲ－６ 森林環境学習促進事業

【社会教育課】

1 実施主体

大分県立九重青少年の家

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

- ・児童・生徒の自然体験活動・環境学習機会の不足。
- ・森林環境学習指導者の減少および高齢化

(2) 目的

森林環境学習を推進するため、森林環境学習指導者の養成と児童・生徒への学習機会の提供を行う。

また、子どもたちの体力・運動能力の向上を図るとともに、木への親近感を高めるため、運動遊びを通じた体験活動を行い、幼児期から木や森の魅力を体感できる機会拡充を図る。

(3) 事業内容

- ①幼児期からの環境学習に関する学習機会の提供
- ②森林環境学習指導者の資質向上及び新たな指導者養成
- ③自然環境での運動（遊び）の推進

3 成果

緑の子ども園・緑の楽校（R4 から「森の子レンジャー」）事業満足度

年度	R1	R2	R3	R4	R5
目標	90%	90%	99%	99%	99%
実績	100%	99%	100%	100%	94%

緑の探検隊（R4 から「森の楽校」）生きる力プラス変容（R3 から環境意識プラス変容）

年度	R1	R2	R3	R4	R5
目標	7.5%	7.5%	7.5%	7.5%	7.5%
実績	11.2%	12.2%	12.1%	14.9%	13.1%

※独立行政法人国立青少年教育振興機構が開発した IKR 評定により数値化した、探検隊参加前後の、子どもたちの「生きる力」の増加率

※令和3年度より調査方法を IKR 評定から環境意識調査へ変更

森林の環境学習サポート隊 事業参加者数

年度	R1	R2	R3	R4	R5
目標	800 名	800 名	800 名	800 名	800 名
実績	1,241 名	348 名	394 名	441 名	448 名

4 今後の課題と取組

- ・次代を担う子どもたちの自然環境に対する興味・関心を高め、「生きる力」を育むことができる事業実施を図る。
- ・子どもたちの森林環境学習機会の増大にむけ、森林環境学習指導者の拡大と指導力向上につながる研修の充実を図る。
- ・子どもたちの森林や木への関心を高めるとともに、体力・運動能力・精神力の向上を図るための、環境学習を推進する。

5 実施状況写真



【森の子レンジャー】



【森の楽校】



【環境学習サポート隊】

Ⅲ－７ 特別支援教育振興事業

【特別支援教育課】

1 実施主体

大分県教育委員会

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

- ・障がいによる活動の制限
障がい種や障がいの状況によっては、森林等での自然体験活動を行うことが困難である場合が多い
- ・身体活動や自然体験活動の減少
コロナ禍の影響で、密になりがちな体育の種目や自然体験活動が中止になるなど、身体を使った活動や自然と触れ合う活動が減少
- ・設備の充実
体力の向上のための設備の充実や、森林や木材に対する知識・理解を向上することが課題

(2) 目的

安全な木製屋内遊具を導入することで、特に障がいや重度な児童生徒が安心して体育科や自立活動*の授業に取り組める環境を作り、体力の向上を図る。また、林業副読本の動画教材を活用することで、自分たちの活用している遊具をはじめとした木製製品を構成している木材に対する知識・理解の向上を図る。

*自立活動…障がいによる学習上・生活上の課題を改善・克服するための指導

(3) 事業内容

1 安全な木製屋内遊具の導入

対象：県内特別支援学校 15 校

(さくらの杜高等支援学校・別府支援学校石垣原校除く)

- ・特に障がいや重度な児童生徒が安心して体育科や自立活動の授業に取り組める環境を作り、体力の向上を図る。
- ・木材の特有の手触りやなめらかさ、温かさを感じる

2 林業副読本の活用

対象：県内特別支援学校 17 校（さくらの杜高等支援学校含む）

- ・副読本の動画教材を活用することで、遊具を構成している木材がどのような環境で、どの様に育まれているか、知識・理解を向上する

3 成果

1 安全な木製屋内遊具の導入

- ・木材の手触りや温もりを感じながら活動を行うことができた。
- ・木材の柔らかい手触りや木の温もりを感じながら活動できた。
- ・揺れる感覚を楽しみながら、繰り返し活動することで情緒の安定が見られた。

- ・ 感触の違いを手や足で感じたり、感じたことを言葉で伝えたりして楽しむことができた。
 - ・ 足裏や足先に刺激を与え、脱感作*することができた。
- *脱感作…感覚の過敏が見られる場合に、知覚過敏を排除する方法

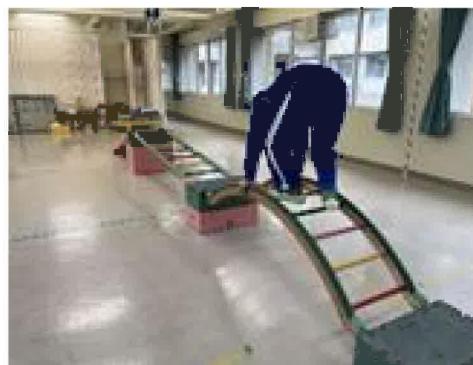
2 林業副読本の活用

- ・ 特別支援学校で行われている「木工作業」で、自分たちの使っている木材が森林から製材となる過程を理解した
- ・ 動画で紹介されていることで、理解が深まった

4 今後の課題と取組

木製屋内遊具と林業副読本の活用を継続し、体力と知識・理解のさらなる向上を図る。

5 実施状況写真



Ⅲ－８ 未来の環境を守る人づくり事業

【環境政策課】

1 実施主体

大分県（委託先：おおいたうつくし推進隊、NPO法人、ボランティア活動などの社会貢献活動を行う法人格を持たない非営利団体等）

2 実施事業の概要

（１）現状と課題

様々な環境問題の解決のためには、子どもの頃からの実体験を伴う環境学習が重要であるが、学校現場においては時間や予算がないといった理由により、年間を通じた計画的な環境学習が十分には実施されていない。

他方、環境学習に取り組む団体もあるが、資金面の問題から単発的なものが多く、体系的な活動が困難な場合が多い。

（２）目的

大分の恵み豊かな自然環境を守り、将来に継承するため、県内の子どもたちが環境問題への関心を深め、解決に向けて自ら考えて行動する力を育成し、環境保全の取組の担い手となってもらう。

（３）事業内容

①おおいたこども探険団推進事業

県内の子どもたちに対する自然体験活動など、年間を通じて実体験を伴う環境学習を行う事業を県が団体に委託して実施する。

②大分県環境教育アドバイザー派遣事業

地域や小中学校、企業などで行われる環境に関する勉強会などに、各分野の専門知識を有した環境教育アドバイザーを派遣する。

3 成果

環境教育アドバイザー派遣事業については、前年度に比べ派遣数も受講者数も増加し、地域や学校、職場などにおける環境教育の機会を提供することができた。

①おおいたこども探険団推進事業

年度	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5
採択団体数	1 2	8	9	9	9
受講者数（人）	約 2, 0 0 0	約 6 0 0	約 2, 0 0 0	約 1, 0 0 0	約 1, 0 0 0

②大分県環境教育アドバイザー派遣事業

年度	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5
派遣実績（人）	1 6 5	9 6	1 1 4	1 5 3	1 8 7
受講者数（人）	8, 6 9 6	3, 4 8 6	5, 8 2 2	7, 1 6 9	9, 3 6 3

4 今後の課題と取組

おおいたこども探険団推進事業については、活動を実施する場の拡大や、希望する団体について県環境教育アドバイザーの助言を受けることができる体制を強化し、事業応募団体の多様化と、団体のレベルアップを図っていく。

環境教育アドバイザー派遣事業については、アドバイザー登録者の増加及び企業への派遣促進に向け取り組んでいく。

5 実施状況写真



①おおいたこども探険団推進事業
佐伯地域ユネスコエコパーク推進協議会
(サバイバルデイキャンプ)



②大分県環境教育アドバイザー派遣事業
(田んぼでの環境学習)

Ⅲ－９ 農山漁村を牽引する担い手確保・育成事業

【高校教育課】

1 実施主体

高校教育課が行う事業において、日田林工高校林業科を対象に実施

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

高齢化などにより林業経営体数が減少しており、森林荒廃や農山村の崩壊が危惧されている。そのような中、日田林工高校林業科では、専門性を活かした教育を実施することで、大分県林業に貢献できる人材を育成しており、今後さらに林業関連の就職者・進学者を増やしていくことが求められる。

(2) 目的

県林業を牽引する担い手の育成では、森林・林業管理の効率化・省力化が期待できるスマート林業を活用するなど、先端的な森林管理の考え方や手法を直に学ぶ体験を通して、地域林業における課題意識を持たせ、その解決に向けた意欲喚起を行う。併せて、小中学生に対しても森林管理の重要性を伝え、林業の裾野を広げることにも取り組む。

(3) 事業内容

①外部講師招聘授業

スマート林業として林業界における進出が著しいドローンの活用について外部講師を招聘し、屋内におけるドローン操縦の体験やドローン利用実態の状況に関する学習等を通して先進技術身に付ける。

②GE（グリーン・エデュケーション）事業 <小中学校への出前授業>

小中学生を対象に、高校生が先生役となり、環境と森林の関係や林業科の学習内容を理解してもらうとともに、高校生自らが教えることにより、自分たちが学んでいる林業についての理解を深める。

③事業所見学（新栄合板株式会社）

木材関連企業の実態を見学することにより、専門教科に対する興味関心を高めるとともに、望ましい職業観を養成し、進路選択の指針とする。

④国内研修（宮崎県）

全国有数の林業県でもある宮崎県で、スマート林業や木材利用に関する技術や、スギ材に関する先進的かつ持続可能な森林・林業管理を学び、林業に関する知識や技術を向上させ、視野を広げるとともに思考を深める。また、他県の人々と交流を持つことで、産業における地域性を知るとともに、郷土愛等の醸成を図る。

3 成果

① ドローン研修

林業を中心とした地元産業において、ドローンがどのように利用されているか等のプレゼンテーションを見て、林業の現況を知ることができた。また、ドローンの操縦体験では、繊細なレバー操作を体験し、基本的な操作を習得することができた。

② GE事業 東溪中学校

林業科3年生 7名が3つのグループに分かれ、中学生に対する出前授業を行った。

- ・1年生 集成材による椅子作り
- 2年生 環境への取り組み 森林の効用
- 3年生 紙のリサイクル ドローンによる樹高測定
- ・中学生 感想

年齢の近い身近な高校生が木材や紙のリサイクルについて説明することにより、中学生も興味深く聞く姿勢が見られた。中学校の教員に対しても林業科の紹介ができ高評価であった。中学生と教員のコメントも概ね良好なものであった。

③ 林業科3年 事業所見学

卒業後の進路先を決定する上で、専門教科に特別関係の深い企業の工場等を見学することにより、座学ではわからない現場の雰囲気や完成後の製品、製造する機械を知り、受験先決定に非常に役立つ学習が行えた。

④ 国内研修（宮崎県）

林業科2年生から参加希望者を選抜し、全国でも有数の林業県である宮崎県において3泊4日の研修を行った。研修先は宮崎県の林業研究施設や林学が学べる大学の演習林、国有林を管理する森林管理署、国内最大級の森林組合およびスギ製材量第1位である製材会社とした。宮崎県の研究施設では、生徒は特にスギに特化した研究に高い関心を示していた。また、照葉樹林帯の見学や樹木の試験林なども見応えがあり、興味深く研修に取り組めた。

4 今後の課題と取組

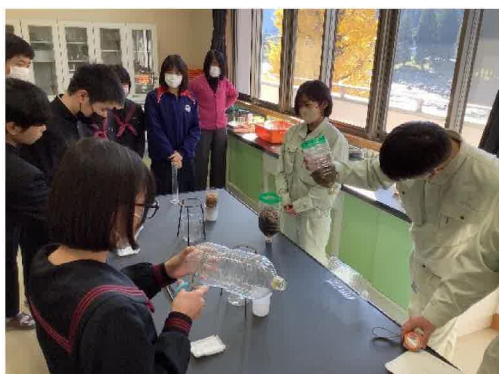
今年度の研修を終えて懸念される来年度の課題は、学校行事など多くの研修や各種事業との調整が必要となるため、実施する時期の選定を早めにするのが大切である。

国内研修では、現在の温暖化する森林環境を鑑みて温暖地での研修の必要性を感じた。令和元年度にくじゅうアグリ創生塾が実施した海外研修（台湾）との連携も含めて考えたい。また、地元小中学校への林業学習普及に関するGE事業も引き続き継続していきたい。

5 実施状況写真

【関係写真】

○GE 事業 東溪中学校



GE 事業 森林の効用



GE 事業 森林の効用

○ ドローン講習会



ドローン操縦体験



ドローン操縦体験

○事業所見学



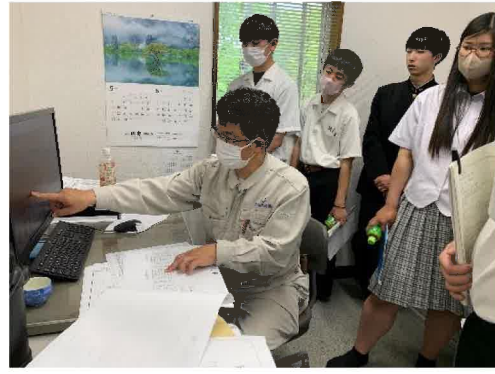
合板工場



合板工場



プレカット工場



プレカット工場 (CAD)

○ 国内研修 宮崎県



国内研修 宮崎県林業技術センター



耳川広域森林組合 製材工場



宮崎大学 田野演習林



宮崎県木材利用技術センター

Ⅲ－１０ 祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク推進事業

【自然保護推進室】

1 実施主体

佐伯市

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

観光客等の安全性・快適性の向上など、受入れ環境の向上・改善が求められている。

(2) 目的

ユネスコエコパークエリア内に所在する老朽化した国定公園施設等を整備し、森林レクリエーション環境の改善と、自然と共生した地域振興を図る。

(3) 事業内容

佐伯市藤河内溪谷の遊歩道の整備（L=23.0m）

3 成果

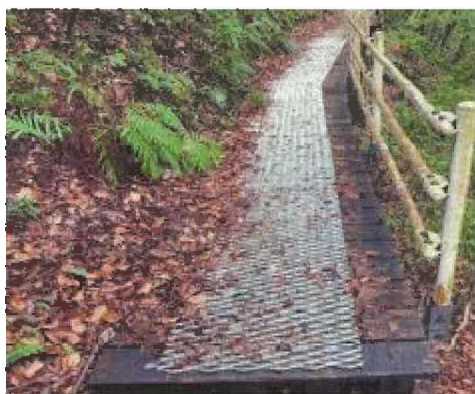
老朽化した施設の改修などにより、安全性の確保や快適性の向上に寄与することができた。

4 今後の課題と取組

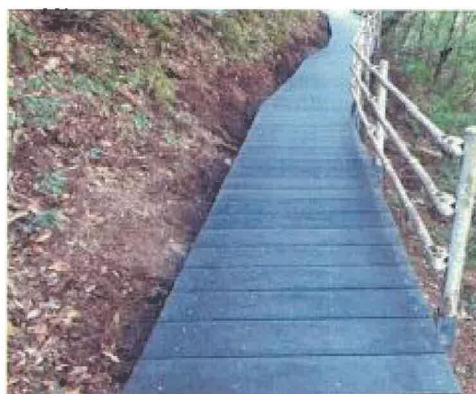
生態系の保全と、自然と調和した持続可能な地域の発展を図るため、今後も引き続き国定公園施設等について、保全・改修等を行っていく。

5 実施状況写真

祖母・傾国定公園施設整備事業 藤河内溪谷遊歩道観音滝線整備工事



(実施前)



(実施後)

Ⅲ－１１ 森・川・海つながり実感！プロジェクト

【全国豊かな海づくり大会推進室】

1 実施主体

第43回全国豊かな海づくり大会大分県実行委員会

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

「豊かな海」の環境は、栄養豊富な水を供給する森林や河川と密接な関係にあり、多様な生物が暮らす「豊かな海」を次世代に継承するためには、海、川はもちろん、森の環境を保全することが重要である。

自然環境の保全については、林業関係者や漁業関係者だけでなく、県民の環境保全に対する意識向上が欠かせないが、県民が森・川・海をつながりを一体的に学べる機会は乏しい。

(2) 目的

森・川・海をつながりと自然環境の保全について、県民の理解を得るとともに環境保全への関心を高める。

(3) 事業内容

県内小学生（4～6年生）を対象に、森、川、海の各フィールドの専門家による自然環境や生物についての説明や、様々な野外活動を体験してもらうツアー型の体験プログラムを実施した。

3 成果

体験プログラムを下記3コース開催し、計45名の参加があった。

応募者は合計179人であり、本事業のように体験学習等を通じて自然環境について学ぶ機会を多くの県民が望んでいる様子が伺えた。

プログラム終了後に参加者にアンケートを実施したところ、「自然環境の保全の重要性」について「とてもわかった」「わかった」との回答が全コースで97%以上（44人/45人）で、プログラム参加者に対して学びの機会を提供することができた。

(プログラム概要)

	開催日	参加者	開催地	内容
①	9月2日(土)	16人	大分市 由布市	・男池湧水群(自然観察) ・大分川(野鳥観察) ・水族館うみたまご(バックヤード見学)
②	9月16日(土)	14人	中津市	・山国川(淡水魚等の観察) ・中津干潟(生物採取体験等)
③	9月30日(土)	15人	佐伯市	・番匠川(淡水魚等の観察) ・魚付き保安林 ・間越海岸(地引網体験など)

4 今後の課題と取組

令和6年11月9日・10日に開催される「第43回全国豊かな海づくり大会～おんせん県おおいた大会～」を契機に、自然環境の保全に対する県民の意識向上をさらに促進する必要がある。

引き続き体験プログラム等の学びの機会をより多くの県民に提供し、自然環境の保全についての取組を推進していきたい。

5 実施状況写真



コース①
(ガイドによる森の説明)



コース②
(ガイドによる川の説明)



コース③
(ガイドによる生物の説明)



コース①
(バードウォッチング)



コース②
(干潟での生物採取体験)



コース③
(地引網体験)